インゲンマメ（インゲン） ★★★

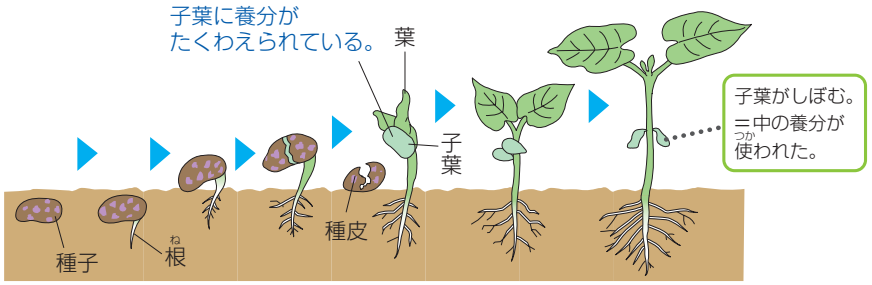
インゲンマメは，野菜として (1) が食用とされています。種皮が赤色のものと白色のものがあります。インゲンマメの (2) が食用とされることもあり，サヤインゲンといわれます。

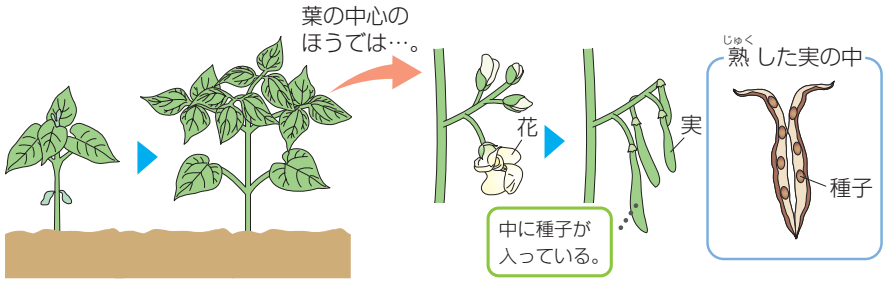
1年中出回っていますが，しゅんは (3) です。

成長のようす

インゲンマメは (4) です。(5) に種子が発芽し，成長します（春以外の季節でも発芽条件がそろえば発芽します）。やがて花がさき，実をつけたのち，かれます。インゲンマメにはつるのないものとつるのあるものがあります。

マメ科の植物は，子葉が大きく，発芽やそのあとしばらくの間の成長のための養分が (6) にふくまれています。



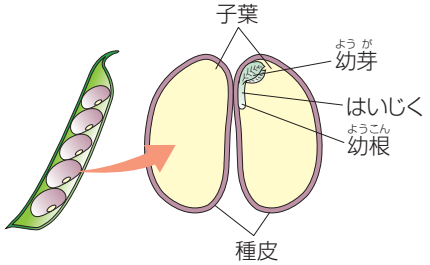


インゲンマメは，発芽実験や成長実験によく使われるんじゃ。入試でも，よく出題されるぞ。1つ1つの条件のちがいに注目じゃ！

種子のつくり

インゲンマメの種子では，発芽のための養分が (7) にたくわえられているので子葉が大きく，種皮以外の部分のほとんどを (8) がしめています。マメ科のほかの植物の種子も，インゲンマメの種子に似たつくりをしています。

インゲンマメの子葉には，(9) が多くふくまれています。



＋プラスワン

種子には，植物の種類によって，でんぷんを多くふくむもの，たんぱく質を多くふくむもの，しぼうを多くふくむものがあります。

花のつくり

インゲンマメの花は，花びらが1枚1枚分かれる (10) です。(11) ある花びらは形が異なります。エンドウの花より小さいですが，形は似ています。マメ科のほかの植物の花も，インゲンマメの花のつくりに似ています。

受粉の仕方

インゲンマメの花は，昆虫に花粉を運んでもらう (12) です。昆虫を引き寄せるために，花びらのつけ根の近くから (13) を出します。

＋プラスワン

マメ科の植物の花の形は，みつを吸いにきた昆虫のからだに花粉がつきやすいようになっています。

（注意） 本ドリルでは入試問題を掲載しておりません。

ダイズ ★★☆

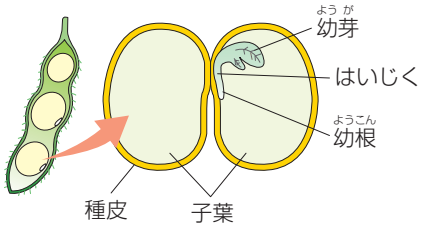
ダイズは，野菜として (14) が食用とされています。ダイズの種子はとうふやみそ，しょうゆなどさまざまな食品に加工されます。また，(15) のときにまかれる豆としても使われます。

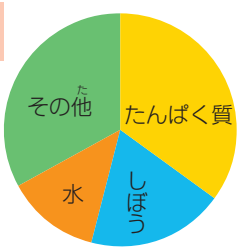
まだ熟していない緑色の状態の種子は，「エダマメ」といわれます。

種子のつくり

ダイズの種子では，発芽のための養分が (16) にたくわえられているので子葉が大きく，種皮以外の部分のほとんどを (17) がしめています。

ダイズの子葉には，(18) が多くふくまれています。動物の肉などのようにたんぱく質を多くふくむことから，「畑の肉」などといわれることがあります。

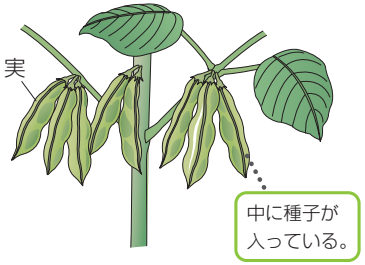




発芽のための養分としてでんぷんを多くふくむ種子が多いが，ダイズやソラマメなどの種子にはたんぱく質が，ヒマワリやゴマ，ラッカセイ，アブラナなどの種子にはしぼうが多くふくまれるんじゃ。でんぷん以外を多くふくむものを例外として覚えておくとよいぞ。

成長のようす

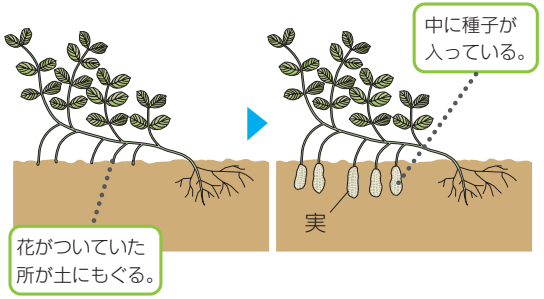
ダイズは (19) です。春に種子が発芽するとつるをのばして成長し，やがて小さな花をさかせます。そのあと実をつけ，やがてかれます。



ラッカセイ ★☆☆

ラッカセイは，野菜として (20) が食用とされています。ラッカセイの種子は「ピーナッツ」ともいわれます。種子には (21) が多くふくまれていて，ピーナッツバターなどの別の食品に加工されることもあります。

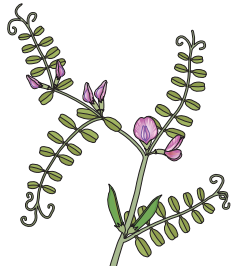
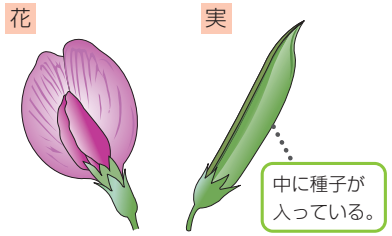
ラッカセイは (22) です。(23) に種子が発芽して成長し，(24) に黄色の花をさかせます。花が落ちると花のついていた所がのびて (25) にもぐり，(26) で実をつけます。実をつけると，やがてかれます。



カラスノエンドウ ★☆☆

カラスノエンドウは，草むらや道ばたに生えていて，(27) から (28) にかけて花をさかせているのが見られます。

カラスノエンドウは (29) に種子が発芽すると少し成長したすがたで冬ごしし，春になるとつるをのばして成長します。やがて花をさかせ，そのあと実をつけます。



カラスノエンドウの花は赤っぽい色で，形はエンドウの花によく似ていますが，大きさはエンドウの花よりもずいぶん (30) です。実の形もエンドウに似ていますが，エンドウの実よりもずいぶん (31) です。